

13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M7979)

文献

伊藤和憲. 線維筋痛症患者に対する耳介刺激の有効性の検討. *慢性疼痛* 2016; 35(1): 61-66. 医中誌 Web ID: 2017196694

1. 目的

線維筋痛症患者のセルフケアの1つとして、家庭で耳介刺激を行うことの有効性について検討。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都、日本

4. 参加者

6 ヶ月以上継続的に鍼灸治療を行ったにも関わらず、大きな症状の改善が認められなかった線維筋痛症患者 18 名

5. 介入

Arm 1: 耳介刺激群 (鍼灸治療に加え、家庭で耳介に電気刺激を1 ヶ月間行う)

耳介刺激装置を用いて耳介刺激を自宅で毎日 20 分以上実施

Arm 2: 対照群 (鍼灸治療のみ)

6. 主な評価項目

介入前と介入1 ヶ月後に、主観的な全身の痛みを Visual Analogue Scale (VAS)、QOL を Japanese Fibromyalgia Impact Questionnaire (JFIQ)、不安・抑うつを Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) にて評価。

7. 主な結果

耳介刺激群 9 名 (51.4 歳±15.4)、対照群 9 名 (50.2 歳±12.4)。介入前と介入1 ヶ月後で、痛み VAS は、耳介刺激群 66.0±22.8→45.0±30.9、対照群 59.8±29.2→53.0±30.9、変化量に有意な群間差あり。JFIQ は、耳介刺激群 61.1±17.5→49.2±20.1、対照群 45.8±14.5→57.3±13.7、変化量に有意な群間差あり。HADS は、耳介刺激群 19.5±6.8→18.3±10.8、対照群 16.0±6.3→18.0±6.8、変化量に有意差なし。

8. 結論・意義

鍼灸治療で効果が認められなかった慢性痛患者に対して、家庭での耳介刺激療法を取り入れることで痛みや QOL に改善が認められた。以上のことから線維筋痛症患者のセルフケアとして、家庭で耳介刺激を行うことは有効である可能性が示唆された。

9. 鍼灸医学的言及

耳鍼を行うことで全身の痛みや QOL が改善することが報告されていることから、耳介部を刺激することは痛みのケアに有効である可能性がある。

10. 論文中の安全性評価

介入期間を通じて耳介刺激による副作用を訴える者は存在しなかった。

11. Abstractor のコメント

「慢性疼痛患者に長期間継続してもらうためには自宅でも簡単に行える方法を確立することが重要である」と著者が記しているように、線維筋痛症などの慢性疼痛患者のセルフケア手段を模索することは重要である。ただし従来の治療に新たな介入を加えると治療成績が良くなる傾向があるので、この刺激装置もさらに長期的な臨床効果の観察が必要と思われる。ベースラインで両群の有意差はないとされるが、n が小さいので JFIQ の最初の差 (61.1±17.5 vs. 45.8±14.5) は気になる。安全性に関しては、症例集積を重ねてより多くの患者でデータを収集・分析する必要があるだろう。なお、本研究はこの耳介刺激装置取扱い会社の受託研究である。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.9